

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4292200054		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム大浜	ユニット名	
所在地	長崎県五島市浜町142-1		
自己評価作成日	2023年 1月 10日	評価結果市町村受理日	2023年 2月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijeyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年 1月 31日	評価確定日	2023年 2月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気のもと、入居者一人一人の思いを知り日々楽しみを増やしていく。 ・着取りケアに関する勉強会を行い、全職員の知識と意識を高めていきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>“グループホーム大浜”は五島市浜町にあり、近くの家まで散歩を楽しまれている。ホームの敷地内には季節の花が咲き、入居者の方々と野菜の収穫を楽しみ、リビングの畳で洗濯物をたたみ、料理の下ごしらえ等も一緒にされている。季節に応じた旬のものを提供し、誕生日には好みの食事が作られており、丼物やちらし寿司、炊き込みご飯なども作られ、毎朝の豆乳ヨーグルトの提供や地域の野菜などを入れたおやつ作りも喜ばれている。日々の身だしなみにも留意し、訪問美容を利用したり、毎日同じものを着ない、寝ぐせをなおす、髭剃りなどを毎日行うように努めている。コロナ禍も家族との密着し面会等が行われ、LINEで日々の写真や動画を送信したり、写真を郵送しており、家族との情報交換を密に行うように努めている。大浜小学校の子ども達が敬老の日にDVDをプレゼントして下さり、日頃の子どもの様子を視聴し、楽しむことができた。馴染みの場所への外出支援も行われており、今後も全ての入居者の方々と平等に支援できるように努めていくと共に、入居者の方々の立場に立った適切なケアの在り方を深めていく予定である。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果	↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、スタッフは一緒に楽しく穏やかに共に育つ家庭の場として家族に囲まれ居心地良く過ごす事が出来、敬愛の気持ちで関わる事が出来るようサービス提供している。	「一人一人をありのままに受け入れて、その方の持てる力を引き出し、みんなと一緒にゆっくり、楽しく、穏やかに生活していただきます」という理念の共有と実践に努めている。職員全員で入居者一人一人の理解を深め、着飾る楽しみ、食べる楽しみ、住む楽しみに繋がるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加しています。以前は地域の行事に参加したり、ホームの行事に参加の呼びかけを行っていましたがコロナの影響で交流が難しくなっている。	毎年、法人内の地域貢献委員会で地域のごみ拾いをしたり、地域の方に講演会「海などの環境整備等」をしている。近所の方から芋の苗や野菜の差し入れもあり、お礼に手料理等をお届けしている。大浜小学校の子ども達から感謝の言葉や日頃の様子を撮影したDVDを下さった。コロナ以前は地域の運動会や敬老会、餅つき、小学校の学習発表会や入学式、卒業式に参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な運営推進会の中で理解して頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者のヒヤリハットや事故報告、職員の研修報告を行い、委員の方に意見を伺いながら役立っている。	2020年度はコロナの影響で会議を中止していたが、2021年度は通常開催を1回、書面開催を5回行うことができた。ホームの取り組みや行事、職員研修内容、事故報告、外部評価結果等を報告し、ご意見を頂いている。個々のご意見に対し、管理者が返答したものを報告書にして、五島市に提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、必要な時に話し合いが出来る関係が出来ている。	コロナ禍、五島市から感染症情報や災害対策等のメールを頂き、日々の対策に活かしている。運営推進会議の際もホームの取り組みを報告し、丁寧なお返事を頂いている。ご利用者の入居に際して不明点などを相談し、アドバイスを頂いている。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は絶対にしない方針であるが、不穏状態で徘徊し、施設より出て事故やケガが起きないように、職員が1名で対応する場合は玄関に施錠するが普段は施錠せず対応している。</p>	<p>3か月に1回以上「リスク委員会」と「身体拘束適正化委員会」を一緒に行っている。食事介助の在り方、排泄時の車椅子の置き方、窓の鍵などを含めて日々のケアの振り返りと対策を考えている。「身体拘束はなぜ禁止なのか」「身体拘束が認められる場合とその対応」「身体拘束の弊害」等を研修で共有している。入居者の意思決定を大切にしながら声かけを行い、日々の役割も作られている。</p>	<p>①あらためて「身体拘束等適正化指針」を職員全員で読み直し、日々のケア時の思考（代替方法）や対策の在り方を見直す予定である。 ②身体拘束等適正化委員会及び虐待防止委員会の報告内容を振り返り、理事長の指示を仰ぐと共に、系列ホームの取組みなども参考にしていこう予定である。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について、ミーティング時に意見を出し合うなどし、日々のケアでも意識して行うよう心掛けています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入所者の中にも今後必要とされる方がいるので、日常生活自立支援事業や成年後見制度などについて、知る機会を設けたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関する説明は、まず管理者が行い、理解し納得して頂けるよう努める。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者には、日々のケアを通じて意見を聞き、ご家族には請求書発送時や電話連絡時など近況報告を行っている。</p>	<p>面会時や電話で日々の暮らしぶりや健康状態等を報告し、不安や要望の把握に努めている。コロナ禍、入居者も家族も「寂しい」とのことで、LINEにてテレビ通話を楽しまれる方もおられる。島外に住む家族もおられ、電話などで情報交換を続けている。コロナ前は敬老会やクリスマス忘年会等で家族と食事をしながら、会話を楽しんでいた。</p>	
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングには、全員発言できる機会を設けている。意見が言えない場合などは事前に聞くなど対応している。</p>	<p>管理者と副主任を中心に職員は結束している。意見を伝えやすい環境が作られ、行事等の職員のアイデアは多い。職員のスキルアップ等を含めて法人内の異動があり、各種委員会活動も行われている。法人の理学療法士が「ノーリフティングケア（腰痛予防対策とケアの質の向上）」の研修を行い、ご利用者と職員の負担軽減に繋げている。同じ建物内にデイサービスがあり、デイの看護師・介護職員との協力体制も作られている。</p>	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は全職員平等に与えられている。資格取得についても職員に勧めている。また、職員それぞれに役割を分担し、責任感を持って取り組むようしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で行われる研究発表などでサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は担当を持つことで、信頼関係を築き、困っていることや不安など相談しやすい関係づくりをしている。また、出来るだけ本人様の要望を聞くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と職員は、家族が困っていることや不安、要望などを受け止め、安心してご家族を預けていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談者は、在宅サービスを利用されている方々ばかりである。入所を待機されている方々には他のサービスや施設紹介をして安心していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできる事を見極め、できる事はして頂き、出来ない部分のお手伝いをしていく。できた時には一緒に喜び、感謝の言葉かけを忘れずに生活にメリハリをつけていくよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時やなど、近況報告をしたり、必要な時は電話連絡をし、情報交換を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や自宅へ戻りたいなどの要望は、出来る限り答えるように支援に努めている。	出身地や生活歴を把握し、近くの海を散歩しながら昔話をされている。同郷の方同士で部屋を行き来し、談笑される姿も見られ、食事の席は同郷の方や知り合いの方を同じテーブルにしている。コロナ禍も自宅やお墓参りに行かれる方もおられ、馴染みの観光名所にお連れしている。家族や知人の方も訪問して下さる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男女問わず、気の合った人たちで同席し、作業やレクリエーション、食事ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の初盆には、お供えをし、ご家族様のグリーフケアも務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には、全職員で対応するが、特に担当はより密に関り本人の思いを知り、要望に応えられるようにしている。また、全職員で情報共有している。	生活歴等から、ご本人のお好きな事や得意な事を把握している。日々の会話や行動から思いや意向を把握するように努め、意思疎通が難しい方も表情やしぐさでお気持ちを察すると共に、家族との情報交換を続けている。「長生きしたい」「人の役に立ちたい」「家族に会いたい」等の思いと共に、「ぼっくりといきたい」等の思いも受容している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴を本人や家族に聞き、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活歴、現在の状況を把握し、ご本人が出来る事の見極めを行っている。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ミーティング時に全職員で話しあうことで、いろいろな意見を取り入れ、作成し、共有に努めている。</p>	<p>センター方式等に記録し、生活歴や趣味、信仰、各活動の「できる事」「できない事」「できそうな事」を共有している。24時間シートも活用し、ストレッチ、口腔体操、ご本人の役割と共に、ご本人の「意向・好み」等を整理している。「水分量」「認知機能」「寝返り」「起き上がり」「立ち上がり」「歩行」等の能力を評価し、介護計画に連動させている。</p>	<p>今後も入居者の方々を「ありのままに受け入れる」ため、家族との情報交換を密に行うと共に、家族からの情報を職員間で共有することを徹底していきたいと考えている。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアの内容や日々の様子、気づきは個別記録に記入し、全体では申し送りノートを活用し、全職員で情報共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>足裏マッサージ機、あずきカイロ、アイスノンを使用し、個々のニーズに合わせて柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>大浜地区の老人会、小学校などの協力を得ながら地域の行事などに参加できるように日々の暮らしを楽しむことができるよう努めている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>以前からかかっている医療機関を継続し、定期的に受診している。受診時には、必ず職員が同行し情報交換を行い気軽に相談や協力が得られる関係が出来ています。</p>	<p>センター方式C-1-1を活用し、心身の情報を丁寧に確認している。受診時はバイタルチェック表を主治医に見て頂き、他科受診時も含めてアドバイスを頂いている。体調変化時は主治医や訪問看護師が来て下さり、職員の安心になっている。職員の観察力もあり、早期対応に繋げている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護と委託契約し、週1回訪問して頂いており、介護職と看護職の連携は密に取れている。入居者の異常時には直ぐに訪問看護に連絡し連携は取れている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入所者が入院した時は面会に行き、主治医、担当看護師、ご家族との情報交換を行い、早期退院に向けて働きかけを行っている。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、早い段階から本人様とご家族の意見を聞いている。主治医、看護師などと支援方針を共有している。今後もご希望の方、ご家族には、ホームでの看取りをさせていただく予定である。	「ここで最期まで・・・」「ここがよかよ」と言われる方が多く、健康管理書（事前確認書）を頂いている。24時間の往診も可能で、家族と他の入居者も一緒に看取りケアが行われ、ご本人の着物を着て頂く事もできた。看取りの時期は管理者等も泊り、職員全員で誠心誠意のケアが行われている。「眠りスキャン」というセンサーで、睡眠中の呼吸状態の観察ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、毎年定期的に訓練や研修を行い、全職員が訓練に参加し研修も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している。また、周辺住民への方々へも協力をお願いしている。	地域の2つのホームと協定書を取り交わし、お互いの訓練に参加している。自動火災連動装置に2つのホームを登録し、津波警報時はグループホーム翁頭に避難予定である。食料等（五目御飯49食・山菜おこわ50食・わかめご飯50食・天然水2リットル12本）を備蓄し、BCP（事業継続計画）も作成していく予定である。コロナ前は年2回（5月・11月）の訓練に消防署が参加し、消防団も3つのホームを1年に1か所の割合で訓練に参加して下さっていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、一人一人に合わせた声掛け、丁寧な言葉使いをし笑顔で接するよう努めている。	職員は声かけも優しく、ご本人のペースに応じた支援を続けている。排泄時の声の大きさに注意し、入浴時を含めて羞恥心の配慮をしている。入居者の健康状態や個々の私情や事情、排泄状態の申し送り時はインシヤル等を用いており、個人情報管理の指導も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせたケアや声掛けを行い、その都度自分でできることはして頂くように対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人一人の性格、体調望みなど、ご本人の状態に合わせて、希望に沿った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、毎日同じものを着ない、寝ぐせをなおす、ひげをそるなど毎日行うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人できる事（料理の下ごしらえ、味見、片付け、テーブル拭き）などしていただく事で、食事の時間が楽しい時間になるように努めている。	朝食は手作りで、昼夜の主食・汁物・デザートもホームで作る。副食は冷凍真空パックで届いたものを解凍調理し、ソフト食も届いている。入居者も下ごしらえ（じゃが芋の皮むき）、盛り付けや配膳、食器洗い、食器拭き等をして下さる。おやつは手作りが多く、どら焼き・ケーキ・お団子・羊羹等を楽しまれ、毎朝、豆乳ヨーグルトを飲まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事提供を外部委託にし、栄養面の心配はない。水分量は一人一人の状態に応じてお茶やジュースなど提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人口腔ケアを実施している。自力でできる方も最後の確認は行っている。看取りの方など居室にて口腔ブラシ等使用しケアできている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その方に応じた支援を継続できています。日中はほとんどの方が、トイレかPWCに行き、パッド内失禁が減るようにしています。	排泄パターンを把握し、日中はなるべくトイレで排泄できるようにしている。布の下着を使用する方もおられ、必要に応じて事前誘導している。居室にポータブルトイレを置き、失禁が減っている方もおられる。トイレ等のドアを閉め、ご本人から見えない所で待機するなど、羞恥心の配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、水分量の調節、毎朝の豆乳ヨーグルトの提供、歩行ができる方は歩行距離の調節、トイレやPWC時の座位保持の確認をしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日にちは決めているが、体調不良や受診日など、日にちの変更をするなどの対応をしています。また時間帯や順番、その日に確認して入浴して頂く。	機械浴を設置し、1人ずつお湯を入れ替え、安心してゆっくり入浴できている。入浴時は湯温などの希望に応じ、職員との会話を楽しみ、歌も聞かれ、できる所は洗って頂いている。ほぼ週3回の入浴で、毎日の陰部洗浄や清拭を行い、日々の爽快感に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせ、消灯時間をずらしたり、テレビやラジオを使用したりする。夜間はゆっくり眠れるよう、尿器を使用したり、オムツを使用したり、交換時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後薬の変更があった時は、その日のうちに職員間で申し送りをして情報共有に努めています。また、変更後の状態観察を行い主治医や看護師に報告できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできる事、好きなこと、得意なことをして頂くことで、日々の生活が楽しい時間になるよう努めています。ドライブや近所に散歩に出かけたり気分転換に繋げています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩が日課だった方は職員付き添いにて決めた時間に散歩に行ったり、買い物に行ったりしている。お祝い日に家族協力のもと自宅に帰り会食を楽しまれたりしている。	コロナ禍も職員と散歩し、海を眺めながら「ミナ取り」等の思い出話になることもある。買い物に行き、洋服やラジオを買われる方や自宅に帰られた方もおられる。住吉神社に初詣に行かれ、「舞い上がれ」の舞台になっている「アコウの木」を見に行かれたり、季節の花見を車窓から楽しまれている。コロナ以前は荒川温泉での足湯、富江町の鯉のぼり見学等も楽しまれていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方以外は、お金の所持はしていない。一部の方は小銭程度は所持していたり事務所で保管している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に合わせて、電話を掛けたりしている。家族にはライン登録していただき顔を観ながらの通話ができる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、見える所にカレンダーを掲示している。皆が過ごす居住スペースには季節ごとの行事に合わせた飾りを変えている。	庭には花（藤の花・向日葵等）や野菜（オクラ、ネギ、ピーマン、芋等）が育ち、一緒に収穫している。リビングでは入居者の希望に合わせて室温調節を行い、低濃度オゾン発生装置を設置し、適宜換気も行われ、感染対策を続けている。畳で洗濯物たたみをされたり、廊下の椅子に座り、日向ぼっこをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席順を気がけたり、廊下の2カ所にソファを置くなど、居場所の工夫は出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや置物など、思い出の品やなじみの物を自室に置くことで、自宅と近い空間になるよう工夫し、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。。	「花が好き」と言う方もおられ、居室から見える所に花壇が作られている。タンス・テレビ・布団・椅子・植物・ぬいぐるみ・ご本人の作品等を持ち込まれ、家族の手紙や写真等を壁に貼られている。洗濯物をタンスにしめたり、ベッド周りの掃除ができる方もおられる。2021年度に電動ベッドを全居室に購入し、起き上がり介助などに活用できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。廊下・トイレ・浴室には手すりを付けている。また夜間トイレに行く際、見えやすいように明かりをつけて対応している。		